

## タン・アンさんからの感謝のメッセージ



ビルマのタン・アンさんは、2012年6月にラカイン州マウンダーで起きた暴動に関係したとして不当に逮捕され、2年間、拘束された後、今年1月に釈放されました。

そのタン・アンさんが自分と家族を支えてくれたアムネスティに感謝のメッセージを寄せてくれました。

「アムネスティに関わるすべての方々に感謝いたします。皆さんが、私の釈放のために行動を起こし、精力的に支援してくださったことに、ことばありません。

私がアムネスティの活動を最初に知ったのは、キューバの政治犯の釈放に向けた運動でした。当時、政治犯の釈放は、ほとんど不可能といわれていました。それをアムネスティは可能にしたのです。私が不当に逮捕され判決を受けたときに、まず私の頭に浮かんだのはアムネスティで、『アムネスティだったら何とかしてくれるかもしれない』と思いました。

国連の人権に関する特別報告者に会ったとき、アムネスティのことを話しました。その後、刑務所にいたときに、アムネスティの支援者から手紙が届き始めました。この手紙が真っ暗闇にいた私が見た最初の光となったのです。『アムネスティなら釈放に向けて動いてくれるだろう』と強く思いました。

しかし、皆さんの活動のすごさを実感したのは、釈放後でした。2013年のライティング・マラソンで取り上げられたのは、幸運だったと思います。大々的なキャンペーンや、私や家族に向けた多数の手紙を見て、私たちはとても感激し本当にありがたく思いました。今後は、私もアムネスティの取り組みを支援したいと思います。苦しむ人びとのために闘う世界中の活動家の皆さんに神様の恵みを」

タン・アンさんのケースは2013年のライティング・マラソンの対象となり、10万を超える嘆願書がビルマ当局へ送られました。その後すぐ、ビルマの人権委員会からアムネスティの支援者に手紙が送られました。手紙には、人権委員会としてタン・アンさんのケースを取り上げたことや、刑務所で面会したこと、医師の治療を受けられる刑務所に移されたこと、刑期が短縮されたことなどが書かれていました。このことはすべて、アムネスティの皆さんの活動が関係者を動かすほどのインパクトがあったことの証です。

タン・アンさんの活動に参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

## フィレップ・カルマさんから感謝のメッセージ

2005年5月26日、インドネシアのフィレップ・カルマさんが反逆罪で起訴され、15年の刑を受けました。逮捕の理由は、パプア独立旗を掲げるイベントに参加したということだけでした。

服役して10年目を機に、私たちは、カルマさんを直ちに無条件で釈放するよう当局に請願することにしました。マレーシア、タイ、フィリピン、オーストラリア、ニュージーランド、英国、カナダ、米国、ドイツ、オランダ、フランスなどの各支部の支援者が署名活動に参加しました。請願書は、当局の関連部署にファックスで送られました。インドネシアのマスコミは、この問題をたびたび取り上げてくれました。先日、私たちはカルマさんへ行って、多くの署名が届いたことを伝えました。

カルマさんはアムネスティにメッセージを寄せてくれました。「多くの国で嘆願書に署名をしてくれた人たち、そしてアムネスティ支部のスタッフに感謝します…。知り合いでもない私に、皆さんは関心を持ち、心配してくれました。本当にありがとうございました。皆さんの安寧と繁栄を心よりお祈りしています」

この活動に参加してくださった方々、ありがとうございます。引き続き、カルマさんを見守りたいと思います。

## LGBTI プライドパレード参加者の保護を！

ウクライナのキエフで6月6日、レスビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・インターセックス (LGBTI) の人たちのパレードが催されたのですが、警察が十分な警備を怠ったため、参加者が暴行を受けました。

パレードの参加者は約250人。フランス、アメリカ、ドイツ、スウェーデンなどの外交官らも参加しました。警官約1500人が警備する中で、開始したプライドパレードでしたが、同性愛を嫌悪する人たちの襲撃を受けたのです。警察当局がプライドパレード主催者と打ち合わせを十分しなかったことと退避計画を立てていなかったことが背景がありました。華やかなパレードは台無しになり、パレード参加者10人と警官5人と重軽傷を負いました。

デモに先立ち、ウクライナのペトロ・ポロシェンコ大統領は、参加者には表現の自由と平和的集会の自由の権利があり、憲法に認めている権利だと、パレードを支持していました。また、キエフ市議会もこれまでのように、裁判所にデモ禁止命令を申し立てることはありませんでした。

アムネスティの支援者は、パレードの保護を求める約2万筆の署名を当局に提出していました。また、今回の暴力行為を広く世界に訴えるためにプレスリリースも出しました。デモについての詳細な報告書とビデオも、間もなく公開する予定です。

本件に関するアクションはこれで終わります。アピール文を送っていただいたすべての方々に感謝します。

## UAE でカタールの良心の囚人が釈放

カタール人で医師のムハンマド・アル・ジャイダさんは5月22日、アラブ首長国連邦のハリーフア大統領の恩赦を受け、自国に向けて出発しました。ジャイダさんは、2014年3月3日、7年の実刑判決を受けていました。

アラブ首長国連邦は、2011年以来、政治団体であるアル・イスラーハとの関係が疑われる個人やグループを対象に摘発を強めていました。アル・イスラーハは1974年の創設以来、イスラムの教義を守り非暴力の政治活動をしてきました。

ジャイダさんは2013年2月26日、ドバイ国際空港で、カタール行きの飛行機を待っている時に令状なしに逮捕されました。当局は、ジャイダさんを数カ月も場所を明らかにせずに拘禁しました。最後まで、限られた家族しか訪問ができませんでした。

ジャイダさんは拷問を受けたと申し立てましたが、裁判官は捜査を命じず、強制された「自白」を証拠として有罪判決を言い渡しました。判決理由は、アル・イスラーハのメンバーとその家族への経済的な支援が刑法180条に触れるということでした。

ジャイダさんの息子のアブドルラーマン・アル・ジャイダさんは2013年12月23日、父親の裁判に立ち会った後、裁判所の外で治安要員に拘束されました。息子は手錠をかけられ、頭から袋をかぶせられてどこかわからない場所に連れて行かれ、父親の釈放のためにキャンペーン活動をしているかどうかを尋問されました。弁護士に相談したいと言っても拒否され、指紋を取られ、眼球のスキャンを取られ、「アラブ首長国連邦を誹謗した」という謝罪文に署名させられました。翌日、ようやく釈放され、空港まで護送され、カタール行きの便に乗せられたのです。

本件に関する当局への要請はこれで終わります。皆さんのこれまでのご協力に感謝します。

### UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F  
TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778  
E-mail:uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 3000円  
郵便振替 00120-9-133251  
加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本